

平成29年度2学期始業式式辞

校長 中村勝年

皆さん、おはようございます。夏休みも終わり、いよいよ二学期がはじまります。
この夏休みにはそれぞれが貴重な経験をしたことと思います。

ギターマンドリン部は全国大会で優良賞、放送部は全国大会出場、吹奏楽部は淡路地区で金賞、水泳部は淡路地区で男子総合優勝、野球部は秋季大会で地区予選を突破し、県大会出場を決定しました。

オープンハイスクールやコース説明会、たそがれコンサートでもたくさんの生徒の皆さんが協力してくれ、津名高校に来られた人たちも大変満足しています。本当にありがとうございました。

皆さんは、今朝カリヨンの音色を聞いたかと思います。たそがれコンサートでは復活したカリヨンの音色を参加していただいた方々に聞いていただきました。

この三年半の間、不具合があり、鳴らすことができませんでしたが、本校3回生で元同窓会長の三津啓祐さんの協力により完全復活しました。本日より1日三回、8時半、一時、5時半に鳴らします。津名高のシンボルとして、また、地域のシンボルとして愛され、親しまれることを願っています。

今日は、二学期のスタートにあたり「教養の力」についてお話をします。この力は生きる力にもつながると思うので、皆さんにはぜひとも身につけていただきたいと思います。

大学や専門学校へ進学すると、一般教養科目や専門科目を勉強します。

一般教養というのは、芸術や文学、自然科学など、人が広く身につけておくべき教養です。それに対して専門科目では、職業人として身につけておくべき専門的知識・技能を学びます。

日本の大学での4年間の教育では、欧米に比べ、専門性が重視されていると言われています。一方、アメリカなど欧米では、大学での4年間の学部では、まず基本として、一般教養を学びます。一般教養のことをリベラルアーツと言っています。その中では、人の生き方とも深くかかわる「人間性」とあるとか、「社会性」を養うことを主な目的としています。

リベラルアーツで勉強するのは、芸術、文学、自然科学などの幅広い教養だけではありません。プレゼン能力であるとか、作文能力など自己表現能力も重視します。それらを通して、自らの意志で社会に関わり、変革をもたらすことができるような実践能力を磨くことが求められます。

では、アメリカではいつ専門性を身につけるか。一般教養を主体とした学部のある四年間の教育をベースにして、専門性は大学院で身につけるという考え方が主流です。

いろいろな国の人が集まるパーティでは、日本人は外国の人と会話があまりはずまないことが多いと聞きます。そういう場では、専門以外の芸術や文学など幅広い話題が出されることが多いと言えます。専門以外のそういうバックグラウンドがあるかどうか、人の深みであるとか、魅力を決めるのです。

また、私たちが人と会って、仕事の話など本題を話す前に、雑談をすることが大切だと言われています。

雑談というのは、たとえば、健康の話、スポーツ、最近気になる商品、面白かった映画や本などです。本題に入る前に、こういう話を先にして、会話を盛り上げ、その後、本題に入ると、交渉もスムーズに進みます。

雑談を通して、お互いに本当に信用できるのかどうか、コミュニケーションの取り方、教養のレベル、マナー、身だしなみなど、あらゆることをお互いにチェックし合っています。ですから、雑談力はとても大事です。

今の時代は先の見えない、はっきりとしない時代だと言われています。これからは、与えられた問題の答えを見つけるだけでは不十分です。

自ら自由に問題を設定し、新しい答えを見つける能力を身につけることが大事です。そのためには、リベラルアーツは重要な役割を果たしていると言われています。

「すぐ役に立つことは、すぐ役に立たなくなる」とは慶応塾長であった小泉信三の言葉です。教養を身につけるとは、創造力、発想力など、長い人生の期間で真に必要な、普遍的な根っここの力を身につけることだと思います。

私自身、文学、心理学、法学、数学など文系・理系を問わず幅広く学ぶことは、自分の考え方の根っこを作ってくれると思っています。また、そのような根っこは「人間性」や「社会性」、「生きる力」を高めるうえで、じわりと後で効いてくると感じています。

また、歴史を学ぶ目的・意義については、ジャーナリストの池上 彰はこう言っています。

「過去に起きたできごとを単なる知識として記憶するのではなく、これから先を見通す手掛かりにしてほしい。歴史を学ぶことで、次に何が起こるか、将来像を思い描くことができるかもしれない」

一昔前の教養がある人とは、たくさん本を読んで、物知りである人を指していました。しかし、いまや知識を身につけるだけでは十分ではありません。次に、精神であるとか、思考力であるとか、創造力、判断力まで高めることが求められます。

さらには、考えてばかりで、行動しなければ何にも役に立ちません。最後は行動すなわち、実践に結びつけることができれば、ベストだと言えます。

読書は、どんな人にも平等に与えられた自分を高める方法です。図書館に行けば沢山の書物を読むことができます。自分の専門にこだわらず、幅広く教養を身につけることにより、多様な経験、知識、文化などを身につけることができます。

二学期には図書委員会主催のビブリオバトルがあります。

また、二年生の総合的な学習「Reborn Project」では地域の課題を解決するために書物を読み、様々な人と出会い、調査し、発表します。英語のプレゼンテーションの発表会もあります。

このようなプレゼンや討論などの場を通して、他の人と意見交換することにより、思考力や判断力、問題を解決する力を身につけることができます。そのような「学びの共同体」に積極的に参画することにより、本当の「教養の力」を身につけることができます。

二学期は、三年生にとって、就職、進学の正念場の時期です。一、二年生にとっては進路実現のための中核の時期です。皆さんは、最後まで、夢をあきらめずに頑張っていただきたいと思います。

また、体育祭というビッグイベントもありますし、クラスでの団結力も磨いてもらえればと思っています。

皆さんにとって、二学期が飛躍の期間となることを願っています。

以上で、二学期の始業式の式辞とします。